

旧約聖書に“宗教”を読む

永野 茂洋

1. 「宗教」における近代

(文献) 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語り直す』みすず書房、2006年。増澤知子『世界宗教の発明-ヨーロッパ普遍主義と多元主義の言説』みすず書房、2015年。

1-1. religion の翻訳語 (造語) :

「종교」	チョンギョ (韓国語)
「宗教」	ツォンチァ (中国語) zong jiao
「धर्म」	ダルム (ヒンディー語) dharm
「ศาสนา」	サーツサナー (タイ語) sàatsanǎa
	ศาสนาพุทธ sàatsanǎa phút
	ศาสนาอิสลาม sàatsanǎa itsalaam
	ศาสนาคริสต์ sàatsanǎa khrit
「agama」	アガマ (インドネシア語)
	agama Budha
	agama Hindu
	agama Islam
	gama Kuristen
「دين」	ディーン (アラビア語)
「ho'omana」	ホオマナ (ハワイ語)

1-1-1. 「宗教」は互いに翻訳可能な何かとして近代において成立する。しかし本来“宗教”は簡単に翻訳できない領域を抱える。

1-1-2. 「宗教」を成り立たせている共通項 :

「何か目に見えない神聖なものにむかって加護や救済を祈ったり、願ったりすること。世界には何か深いものがあって、それに触れるとき人は神とか、霊とかという、合理性を越えた存在について語る。そういう存在に向けて非合理的な行為や儀礼を行ったりする。あるいは、そこにタブーが成立したりする。そういうものの全体」。

1-2. ヨーロッパ近代の「ネガ」としての「宗教」による世界分類

1-2-1. 18-19世紀 : キリスト教徒、ユダヤ教徒、マホメット教徒 (Mohammedans)、異教徒 (heathens, pagans、偶像崇拜者 idolaters、多神教徒 polytheists)

1-2-2. 9-20世紀 : [中東] キリスト教、ユダヤ教、イスラム (教)、ゾロアスター教 (パルシー教) + [南アジア] 仏教、ヒンドゥー (教)、ジャイナ教、シク教 + [極東・東アジア] 儒教、道教、神道 + その他 [アニミズム、シャーマニズム、未開宗教、原始宗教、無文字社会の宗教、先住民の宗教、部族宗教、基層宗教]

- 1-3. 「東洋学」と印欧語族の「発見」によるキリスト教アイデンティティの変容：キリスト教における「脱セム」化の進行
- 1-4. 明治政府による銀行制度、官僚制度、郵便制度、学校、病院、軍隊などの合理的な経済・政治・社会制度の移植形成と「宗教」政策
  - 1-4-1. 「国民の福祉のための住民管理の強化」政策の一環としての「宗教」管理
  - 1-4-2. 明治期の社会制度設計と宗教と関わりについての思想
    - ・元田永孚
    - ・森有礼
    - ・福沢諭吉(文献) 森有礼『日本の教育』(1873年)。林竹二『森有礼・悲劇への序章』(林竹二著作集2、1986年)。園田英弘『西洋化の構造』(思文閣出版、1993年)
- 1-5. 脱亜・「興亜」・「大東亜」と日本のキリスト教における「オリエンタル・オリエンタリズム」の問題
2. 『創世記』の中の“宗教”を読む
  - 2-1. 初期キリスト教会と「創造信仰」  
cf. 『使徒言行録』14：15-17
  - 2-2. 新島襄と『創世記』1章  
新島襄は宣教師の「漢訳パンフレット」によって「天父」の存在を「知り」密航。アメリカ帆船ベルリン号のW.T. セイヴォリー艦長が新島を上海まで乗せ、そこでアメリカに戻るワイルド・ローバー号のテイラー艦長に新島を託した。その航海途中で事件が起きる。新島は香港停泊中に街に出て脇差しを売り『漢訳聖書』を買う。「天父」への「信仰」をもつようになる。  
(文献) 『新島襄自伝』岩波文庫、2013年。『わが若き日-決死の日本脱出記』毎日ワンズ、2013年。『鶴見俊輔コレクション①思想をつむぐ人たち』河出文庫、2012年。
3. 「創造信仰」の必要をどこに求めるか
  - (a) 「祭司資料」(P)の「創造物語」(『創世記』1：1～2：4a)
  - (b) 「ヤハウィスト」(J)の「創造/樂園喪失物語」(『創世記』2：4b～3：24)
4. 『創世記』1：1～2：4a
  - 4-1. 「神ははじめに天と地を造られた」/「神がはじめに天と地を作られたとき」  
「光」以前の「世界」の光景としての「闇」と「混沌」  
『哀歌』2：18以下、5：1～22の光景
  - 4-2. 7日間の神の創造と被造物に対する祝福  
(第1日) 光、(第2日) 天空、(第3日) 大地と海と植物、(第4日) 太陽と月と星、(第5日) 魚と鳥、(第6日) 動物と人間、(第7日) 安息
    - 4-2-1. 神のリズム  
(文献) ルートヴィッヒ・クラーク『リズムの本質』(うぶすな書院、2012年)
    - 4-2-2. パウロの「創造信仰」 cf. 『ローマの信徒への手紙』13：12
  - 4-3. 神のかたち「神は人を男と女に創造された」  
cf. 『コヘレトの言葉』7：9